

第1節 「旧北奥^{ほくおう}ルート」スルーハイク～[源義経逃避行ルート上書き大作戦]～

標記旧街道を正身 2014 (平成 26) 年 6 月 15 日 (日) 京都三条大橋スタート～7 月 14 日 (月) 平泉ゴールまでを 29 連泊 30 日間、ルート沿い計画距離 995 km に対する実歩行距離 1,088 km を連続連日歩行で踏査しました。1 日平均の実歩行距離は 36.3 km、同時間は 9.8 時間、同平均時速は 3.7 km でありました。もちろん、この期間中に休息日は入っていません。全ルートの概要は図-80 (赤い線、白黒では黒い太線) のとおりで、この時足跡を残した通過県は、京都府、滋賀県、福井県、石川県、富山県、新潟県、山形県、宮城県、岩手県でした。

1. 義経の原点

スタート前日の 6 月 14 日 (土) は京都まで新幹線移動し、さらに京都駅から鞍馬駅に電車移動しました。鞍馬駅から歩き始め、鞍馬寺山門から入り由岐神社、鞍馬寺本殿金堂から木の根道に至り、その先の義経堂等の諸堂を巡り、いわゆる鞍馬山を歩き、その後貴船川沿いまで足を延ばし、貴船神社とその奥の院までを歩きながら散策し戻って来ました。義経が牛若丸と言われた幼少の頃の修行道場であった界限を満喫して来ました。

さらに京都市街に移動し、義経 16 歳の時、奥州平泉へ出発の際に道中の安全を祈願した京都市内今出川^{かどて}の首途八幡宮——宮司に依れば、文治元 (1185) 年 11 月の北国落ち逃避行出立の時もここで安全祈願したとの事——に立ち寄って、私も安全祈願の参拝を行い、前日の行動を締め括りました。

いよいよ翌日の 6 月 15 日 (日) 早朝、京都三条大橋から本番のスルーハイクのスタートを切ったのです。



図-80

2. 「大香^{RouCon}ブランド老魂サブタイトル」設定の背景事情

人間の尊厳は偉大なものだ、人間の命は地球より重い、人間は平等だと言われるものの、共通テストでもすれば、人口の数だけの順番が付きます。そんな崇高な命でさえも人それぞれの長短の寿命があります。そんな事がある書物を見ながら思いに耽っている時、ふと目に止まったのが「判官^{ほうがんびき}鼻^び真^ま」の言葉で

す。元来、日本人は弱い者や、敗れた者に同情をすると言う心情を持っています。そういった心情を判官鼻鼠と言うのは、源義経の武勇に長けた英雄でありながら、一方で、不運で薄命の人生で終わった事に、哀惜し、同情して来た行為に由来すると言われていています。人間の本能的な強弱に対するバランス感覚の発露、博愛精神にも共通するような気がします。博愛とは、「すべての人を平等に愛すること」です。そうすると、「判官鼻鼠」の心情は、何も日本人特有の精神ではなく、地球上の人間の万人に共通し内蔵している人間固有の素朴な人間愛の基本であるような気がします。

もう一つの義経に関心を持った引き金が、私が所属する「滝山郷土史研究会」に於いて義経譚について聞いた事もありました。そこで「義経記（高木卓／河出文庫）」、「源平盛衰記（三田村信行／ポプラ社）」、「義経伝説をゆく（京都新聞出版センター）」などを読んで見ました。源義経は、誕生から幼少期までの母常盤・兄弟と別れた不遇の時期、平氏打倒に密かに闘志を燃やした思春期・青年期、知略の限りを尽くし平氏打倒を果し高大な勲功を挙げた時期までの武雄姿が浮かんで来ます。しかし、やがて兄頼朝との確執から追討命令を受け、奥州藤原秀衡を訪ねて1年もの長い逃避行の旅を終え、やっと秀衡の庇護のもとに安住したのも束の間、その子供の基衡から狙われて自害してしまった、波乱万丈の人生の艱難辛苦を全力で突破・疾走して行くその姿に、私も心を打たれました。それらの書物に生き生きと描かれるストーリー、様々な障害・難事に突き当たりながら、過酷な詮議を受けながらも、知恵を駆使し難関突破を図って行く主従一行の柔軟性、チームワークに感動し、そこに登場する地名、神社仏閣の名所、旧跡をこの目で見たくなったのです。そこで、「大香ブランド^{RowCon}老魂サブタイトル」を「義経逃避行北奥ルート上書き大作戦」とし、図-81をも参考にルートを設定しました。



図-81

3. 出発日の設定

本番スタートの日を何時にするか、いつものように考えました。私の生年月日は6月6日ですが、所要があってこの日は対応出来なかったのです。しかし、何とか「6」に拘り、 $6 = 1 + 5$ 、そうだ15日にすれば良いとの直感で、6月15日（日）としたのです。

4. 「歴史街道・古道」への思い入れ

これまで、旧五街道など歴史街道・古道のスルーハイクに計画的に取り組んで来たものとして、懸案の一つであった「旧北陸道」を歩きたいとの思いを持っていました。こうした事から「旧北陸道」をも重ねて挑む事にしたのです。

以下、図-82参照の事。義経主従は、北国落ち・東下りの時は、京都を発ち、旧東海道を琵琶湖畔の大津まで行き、大津港から琵琶湖西北端の海津港までは船を使っています。（今は、運行されていません）

私もそれに倣い「旧東海道」の基点である京都三条大橋をスタートし、琵琶湖畔の大津まで達しました。そこからは、陸路である西側「旧西近江路（旧北国海道／七里半街道）」を歩き、海津を経由し3日後の6月17日（火）福井県敦賀市疋田追分に到達し、一旦ここで終結しました。翌日6月18日（水）は「旧北陸道」と「旧中山道」との合流（分岐）点である鳥居本（滋賀県彦根市鳥居本町までは前日電車移動）から再スタートし、先の疋田追分で合流し、以後新潟までの「旧北陸道」を歩いたのです。なお、「旧北陸道」は、奈良時代から開かれた官道の呼称で、近世は「旧北国街道」とも呼称されているようです。



図-82

その先、新潟から鶴岡までは「旧浜通街道」と言われ、鶴岡から新庄までは「旧出羽三山最上川参詣道」（義経一行は、清川から本合海まで船を使用）と私が勝手名称付けし、新庄から岩出山までは「旧最上小国街道」、岩出山から一ノ関までは「旧陸奥上街道」、一ノ関から平泉までは「旧奥州街道」と称されています。なお、同じ道が地域によって様々に呼称されています。現地で実際に歩いたルートは、国の文化庁が、昭和53年度以来「歴史の道」の調査・整備事業を推進し、各都道府県教育委員会が実施主体となって纏めた「歴史の道調査報告書」を取り寄せたり、これに基づいて部分的に歩いている人がインターネット上に公開している資料を参考にするなど、これらを精査した上で決定した道筋を歩きました。

私のトレイルでは「旧北奥ルート」と呼称付けしましたが、「北」は旧北陸道・旧北国街道・東北、北国落ちの「北」、「奥」は奥羽・陸奥（むつ、みちのく）・奥州の「奥」と重ねて意味付けしています。

5. 道沿いの状況

(1) 古道らしさ

人だけが通られ往時を彷彿させるいわゆる古道（山道）が所々に残ってありました。中でも木ノ芽峠（福井県の敦賀と越前との間）、亀割山峠越（山形県新庄市と最上町との間）、中山越え（山形県最上町堺田と宮城県大崎市鳴子に至る間）、^{むつかみ}陸奥上街道（宮城県岩出山と岩手県一ノ関に至る間）の所々の峠が素晴らしく印象に残っています。他の歴史古道と同様に要所にお地藏様や供養塔が安置・祀られており、人馬の往来の安全を祈願した旅人の願いがひしひしと伝わってくる雰囲気がありました。

源氏の木曾義仲が奮戦し源平合戦の舞台となった俱利伽羅峠（石川県と富山県境）は、殆どが車道化されており、過剰整備の感が否めず、せっかくの有史に残る歴史の大舞台が人工的で趣は余り感じられませんでした。ちょっと残念でした。

(2) 歩きの難関2題

a. 洞門潜り

新潟県に入ってまもなくの糸魚川市市振から青海まで（直線距離で約13km）のいわゆる「親不知」区間は、車道が図-83のような洞門（海側は壁の一部が開けている）の連続でした。内部に歩道が無いのはもちろん、路側帯も無いに等しく、車との交差の場合は逃げ場がなく、体を山側の壁にぴったり寄せ、車の通るのを待つから歩き出す、この繰り返しで抜けました。まったく歩行者無視の道路行政です。歩きは壁にぴったり接する事が出来るが、自転車走行はもっと危険なのではないかと思いました。殆どの車（運転手）は、よもや洞門内を歩く人はいないだろうと言う先入観が強く、スピードを緩めるものは皆無に等しいものでした。親不知の所は、昔は崖の下を、波が引いた時を見計らって走り抜けたと云われたとおり、山際まで波が被っていました。覗いて見たが、今は波打ち際は絶対通れないと思いました。



図-83

b. 藪漕ぎ

今回のトレイルの中でまったく予期もせぬ出来事がありました。一大ハプニングでした。宮城県岩手県に泊まった夜は朝方まで強い雨が降ったが、翌最終日出発の朝は止んでおり晴れ間が広がる勢いでした。心も晴れやかになり、「ゴールに向けた今日は雨具を着用する事もないし」と、ルンルン軽やかな気分で歩みを進めました。ところが、猿田の集落（図-84）の先で山道が藪で行き止まりになったのです。その近くの民家に戻り事情を聞いたら「何年も前から人は通っていない、竹藪で通れない。」と言われました。しかし、計画したとおりのルートを突破しなければ気が済まない性分故に、その藪に突入しました。昨日までの雨で藪にはたっぷり雨が付いている事からやむを得ず事前に雨具を着用しました。入口はつる・蔦の密生地でもとても掻き分けて通れるものでは無く、その蔦の上に腹ばいで泳ぐようにもがきながら100mほどをまずは突破しました。今度は、直径3~5cmほどの太い真竹（背丈2m超）の密集・密生地です。これが簡単には直進出来ません。数本ずつ両手で分けながら泳ぐように必死でもがきながら約500mを40分ほど格闘しやっとの思いで脱出しました。雨具のズボンが破れてしまいました。



図-84

6. 義経主従の騒動に立会い (!?)

「義経記、源平盛衰記」等に出て来る地名・関所、名所・旧跡、神社・仏閣など、いわゆるゆかりの地に沢山出合いました。現地の案内説明版に義経主従との関りの記述を見付けては、今の周辺の植生や眺めなどの自然環境を当時に巻き戻し、その中での一行程の行動を想像しつつ、嘘も方便の演技・演武に感動したり、一喜一憂したり追慕の尋ね歩きをしました。私は800年以上も前の歴史の真偽を検証するほどの知識・能力は皆無です。謡曲の安宅、歌舞伎の勧進帳を含めて、伝説だ、作り話だ、みんな食い違っているなどと言って片付けるのは簡単であるが、それらの文献・文芸作品に登場する名場面を、私がタイムスリップした往時に引き連れて、その場で再現させる思いで、まさに詮議・騒動に立ち会った気分を持って、自己陶醉して来ました。義経伝説の復元化・解凍作業、今と往時の出来事の往復・立体化、実像化作戦でもありました。つまり、歩きを以って上書きの旅路でありました。ゆかり

りの地の主な立ち寄り場所は、木ノ芽峠、愛発の関あらかち（疋田追分周辺）、加賀菅生石部天神（石川県加賀市）、安宅の関（石川県小松市）、俱利伽羅峠、如意の渡しこくじょうじ（富山県高岡市）、国上寺こくじょうじ（新潟県燕市）、判官舟かくし（新潟市角田浜）、多岐神社（村上市）、念珠の関（山形県鶴岡市鼠ヶ関）、御諸皇子神社ごしよのおうじ（庄内町清川）、亀割山峠、栗原寺（宮城県栗原市）などでした。

それらの文献・文芸作品の内容を吟味し、それらに基づいて現地に説明版を掲示している訳であろうが、その説明版に義経主従云々と言う記述を見付けては、「やっぱり、ここを義経主従一行は通過したのか、ここで厳しい追及の詮議を乗り越えたのか」と感激仕切りで胸いっぱい気持ちになりました。義経と弁慶はある時は助け、ある時は助けられ、主従の関係が変幻自在、二人の知略を尽くして、通行を妨害するあらゆる障害を乗り越える機略の多様性・バリエーションに感嘆し、時には感傷的になり、時には清々しくなり、共有・共感し悲喜交々の旅路でありました。この義経北国落ち・東下りの様子を義経本人あるいは弁慶、一行の人々が記録した古文書なるものはないと思います。いずれにしても現存していないと思います。また、今で言う同行記者はいなかったと思うのです。こうした中で、前記文献・文芸作品に登場する地名が、部分的に他の文字に置き換えられたものもあるようですが、800年以上経過した現在の地名と一致するのです。すると、それら前記文献・文芸作品の内容が後世の人の作品であろうが、伝言・伝記であろうが、やや記憶の齟齬があるにせよ、史実の根幹は歴史の風雪に耐えて今に伝わっているのです。人々の共感を得られたからこそ伝承されて来たのです。そう思うと、義経の短き31年間の人生に、一層の同情・哀惜・追慕の念が込み上げて来ました。ちょっと、源頼朝に触れておきます。「人の子」と言う事です。やがて頼朝は武家の本格政権である鎌倉幕府を開いた実力者です。弟義経は数々の華々しい軍功を挙げ天皇から「判官（検非違使）」の官職を授かり、名誉が高まって行くと、それをうらやましくなる、ねたみ、ひがみ、憎しみにこしょう昂揚・変質し、やがては殺そうとした。結果は自害に追いやったのです。現代で言えば、総理大臣が妬むようなもので、まったく子供じみています。化け物でなかった、ただの人間だったと言う事です。

7. 武蔵坊弁慶読み上げの白紙の勸進帳

住吉安宅神社（石川県小松市安宅町）を訪れた際、同神社に掲示されている宝物の中に、これは武蔵坊弁慶が、東大寺修復再建の勸進帳と称して読み上げた内容・文言を、ある高僧が、こうであろうと推測で書いたものが図-85のとおり言う事でした。これを私が読めるように活字化したのが次のとおりです。

「

勸進帳

それつらつらおも惟だいおんんみれば、大恩教主の秋の月は、涅槃の雲に隠れ、生死長夜の長き夢、驚かすべき人もなし、ここになかごろみかど中頃帝おはします、おん名をば聖武皇帝と名付け奉り、最愛のぶじん夫人に別れ、恋慕止み難く、ていきゆう涕泣眠りにあらく涙玉を貫く、思を善途ひるがえに翻して、るしゃなぶつ廬遮那仏を建立す、かほどの霊場の耐えなんことを悲しみて、しゆんじょうぼうちようげん俊乗房重源諸国を勸進す、一紙半銭の奉財のともがら輩はこの世にては無比の楽に誇り、とうらい当来にてはすせん数千蓮華の上に坐せん。帰命稽首敬って白す。」

様々な文芸に登場し、様々な人が記載し、素材や人の感性・理解の違いから微妙に異なるが、この対訳は次のとおり。「大恩教主（釈迦如来）は、仏法の真理を語り、秋の月のように世の中を明るく照らしていたのだが、釈迦が涅槃渠に入って（死んで）それを説く者がいなくなったために、秋の月が雲に隠れるように今はその真理

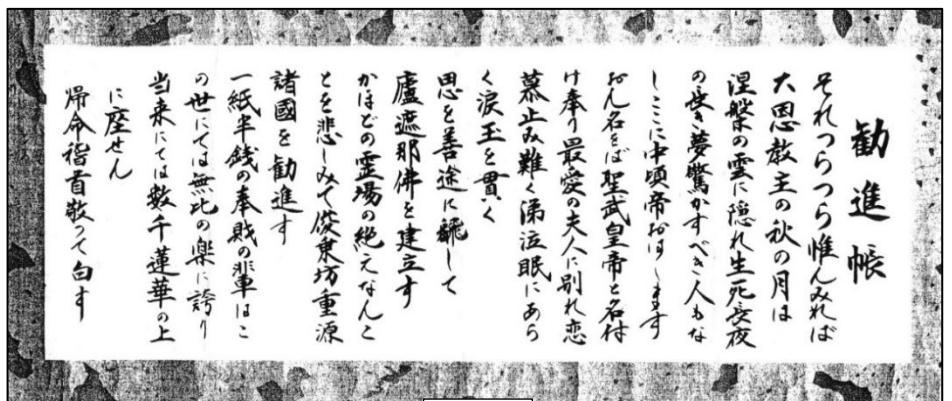


図-85

も隠れてしまっている。生きる事死ぬ事も、仏法を知って悟りを開かなければ、生と死と言う長い夜に長い夢を見ているようなものだが、今は仏法の心理を説いて、その眠りを覚ます事が出来るような人もいない。実に迷いの多いつらい世の中である。さてここに、少し前であるが、ある帝がいらっしゃった。お名前を聖武天皇とお呼び申し上げた。帝は最愛であった妻に死に別れてしまい、しかし死んだ妻を慕い想う気持ちを止める事が出来なかった。涙を流して泣いて眼は腫れ上がり、涙は玉に穴を空けて繋げるように流れ続けて乾く暇もない。消えぬ悲しみと妻への愛情を昇華すべく、人民が身分の上下なく死後極楽往生出来るように、毘廬遮那仏（大日如来）と言う仏を本尊とした東大寺を建立なさなされた。そのような立派なお寺が人々のために作られたにも関わらず、去る治承（寿永と書いている人もいる）の頃、（平家の乱暴で）焼けて無くなってしまった。このような立派な聖地が無くなってしまった事を悲しく思って、（今回の勸進の主催者である）俊乗坊重源は、帝にお願いして東大寺再建の勅命を出して頂いた。この上もない恐れ多い勅命を受けて、如何ともし難い、儘ならぬ無常のこの世ではあるが、上下貴賤、仏僧、一般民衆の区別なく、あらゆる人々からこの勅命の趣旨を理解賜り、諸国を勸進して（寄付を募って）歩いている。そして我々もそれに協力して手分けして勸進のために歩いている。例え紙一枚、お金半銭程度のどんな僅かな財産でも寄付した賛同者は、この世に於いては例える事も出来ない楽しい人生を周囲に誇りながら送る事が出来て、当来（来世）に於いては極楽浄土の数多くの蓮華の花の上に座って生まれ変わる事であろう。仏に身命を捧げ、頭を地に付けてぬか額づき敬って、以上の事を天に届けとばかりにうやうや恭しく謹んで申し上げる。」

8. ゴール

スタートから 30 日目の 2014（平成 26）年 7 月 14（月）の午後、ついに念願の目的地の平泉に入り、



図-86

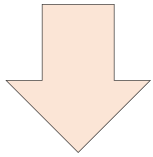


図-87

きゃらのごしよ たかだちぎけい
伽羅之御所跡、柳之御所跡、高館義経堂、弁慶墓所、
中尊寺金色堂に立ち寄り、道中の無事に感謝し参拝し
ました。ここにゴールし、所期の目的を達する事が出
来たのです。図-86はスタート時の京都三条大橋です
が、図-87はゴールした平泉の高館義経堂の少し手前
の階段の所です。体重は4kgほど減っていました。

これまで、スルーハイク・ロングトレイルを計画的
に取り組んで、今回は13回目であるが、飛び上って万
歳したくなるほどの感激が自噴しませんでした。これ
は、不思議なのですが、今までと同様なのです。つま
り、通過点と言う気持ちが強いかからだと思います。
先々目標とする多くの挑戦すべき歴史街道・古道があ
るからだと思います。なお、静かではあるが「大香ブ
ランド^{RouCom}老魂サブタイトル」の思いを成し遂げられた事
を素直に喜びました。

9. 思い出と感想

(1) おじさんの機転

スタート前日の6月14日(土)、鞍馬山鞍馬寺の山
門に差し掛かった時の事です。拝観券販売担当のおじ
さんの機転には驚きました。私「(平然と)牛若丸はい
ますかね?」、相手「あいにく様です。本日は出張でお
留守にしています。またの機会に!」とさらっと、は
にかむ事無く平然と応えました。それだけで後の会話
なし! さすがと思いました。柔軟かつ機知に富んだ

対応に爽快な気分になりました。脱帽です。

(2) 子供達との会話

6日目の6月20日(金)、越前市内の北陸本線こせん橋の所で小学高学年6人と出会い、子供達の方
から「何しているの?」との質問・声掛けがあり、会話に発展しました。私から勉強と遊びの割合について
問い掛けたら、60対40と答えた事から「それは立派だ、しかし、無理しなくてもいいと思うよ! 勉強
51対遊び49の心掛けが大事ではないか、分るかい!」と言ったら「そうか!」と皆にここにこしてい
ました。

(3) 住職の冗談

19日目の7月3(木)、国上寺こくじょうじに立ち寄った時の事です。同寺本覚院の住職親子が、彫刻刀等何種類か
の刃物・道具類を並べて、扁額に文字の彫刻を行っていました。「何やっているの? ここにも義経主従
一行が立ち寄ったのですよね・・・」などと質問しながら会話している中で「あんたは、冗談が通じるよ
うだね!」と私を見て、「ここには、人を殺すピストル以外なんでもあるから!」とさらりと話されまし
た。私は咄嗟に「そうだな、馬鹿とハサミは使いようと言うから、物は使い方次第だからなあ!」と非力
(アンマッチ?)な言葉で応酬し、楽しい一時でありました。

(4) はらはらした事

25日目の7月9日(水)鶴岡から7月11日(金)の3日間は、台風8号の影響で、時々強い雷雨に見舞われました。中でも7月10日(木)の山形県清川から本合海までの区間は日本三大急流の一つ最上川と並行して歩く事になるが、平常時より水位が5・6m上昇しているとの事であり、さらに水嵩が増している状況にありました。歩きながら増水するのが分かる位で、国道と対岸の方は田んぼが多く、まもなく冠水しそうな所もあり、流れの速い茶色の濁流が所に依っては渦を巻いており、歩いている国道47号線がいつ決壊しても可笑しく無いと思いつつ恐怖感を覚えました。すごいストレスを感じる時間帯でした。新庄市本合海に着いて最上川を離れた瞬間ほっと安堵しました。同日の7月10日(木)、雨に濡れた身体を休めたく古口の最上川舟下り発着舟番所に立寄りました。団体観光客の舟下りが中止になって、屋内でのおしゃべり・歌・踊りのイベントがあり、一緒に拝見しました。美人スタッフお二人のピッタリ息の合ったやりとりはとても楽しくすっかり時間の経つのを忘れてしまいました。最初は地元の民謡等から入らず、山形市界隈の紅花摘み歌から入ったが、さすが「山形日和」DCの担い手と感じました。フランス語・韓国語バージョンの最上川舟歌の披露があり、同歌は何回聞いても素晴らしい民謡だと感じました。図-88はその二人と3人で。



図-88

(5) 怒りを感じた事

最終日の朝です。散歩しながら2匹の犬を連れて人とすれ違った直後、後ろからいきなり激しく吠えたのです。本当にびっくり仰天でした。そこで、犬に向かってストックを振りかざして、数回叩き込んだら飼い主の相手は「やめてください!」と叫びました。私は「ちょっと待て、私は何もしていないのにいきなり吠えてびっくりしたではないか」、「相手;犬だからしょうがない」、私はここで少し怒りの声を挙げました。「何もしていない人間を噛みつこうとするのは、飼い主が私に襲い掛かったも同然である。人に襲い掛かる様な、恐怖の念を感じるような吠え方で精神に障害を受けた、飼い主の犯罪行為である。慰謝料を請求するぞ、吠え方は飼い主の躰になっていない、飼い主の責任だ!」とはっきりと明言したら、相手は「すみません」と謝りました。もう少し言いたい事はあったが、時間の無駄と思い、それ以上は追求しないで歩を進めました。

(6) 墓石の事

当地方(山形)では、墓石の正面の文字は「〇〇家の墓」など、家の固有名詞(名字)を刻字するのが一般的です。しかし、富山県までは「南無阿弥陀仏」が殆どでした。もちろん、当地方と同じものも一部ありました。図-89の中で、矢印以外は全部「南無阿弥陀仏」でした。しかし、新潟県の糸魚川に入ると当地方と同様のものが表れ、北上するに従いその割合が増えて来ました。

その理由を推察して見ます。「蓮如上人御影道中」――浄土真宗(親鸞聖人開宗)などの僧・門信徒



図-89

らが中興の祖・蓮如上人の御影（肖像画の軸）を携えて、京都の本願寺から福井県坂井郡金津町の東本願寺吉崎御坊（東別院）までの約240キロを練り歩く事——のゆかりの寺があちらこちらにあり、また、親鸞聖人の石像とそのゆかりの地を紹介・案内する石塔なども随所がありました。これらの地域事情から察するに、「南無阿弥陀仏」を唱える念仏往生信仰の普及に努めた親鸞（浄土真宗）の影響が大きいからだと思います。

（7）庚申塔の事

道沿いの石碑・石塔には関心を寄せて来たが、富山県までは「庚申塔」の存在には気が付きませんでした。やっと、新潟県境の富山県の外れの朝日町で初めて気が付ききました。新潟県に入ったら所々で自然に目に入るようになりました。当地方と同様です。思い出して見ると富山県まではお地蔵さまがやたらと多いと言う印象を持ちました。どんな理由なのでしょう。私が思うに、富山県より以西は、江戸期までは政治の中心舞台であった京都に近く、規模の大小はともかく、国盗りの戦いに明け暮れた長い歴史がありました。群雄割拠の世の人馬の往来に伴い、道中安全祈願や不慮の死を遂げた人々の供養と言う民衆の心情が厚かったのではなかないと思います。それらの心情は信仰心と溶け合って必然的にお地蔵様の建立と安置に繋がって来たのではないのでしょうか。一方、新潟から東北地方に掛けては、西日本よりも激しい戦いは余り勃発せず、ごく平易に言えば平和な世にあっての民衆の生活上の関心が娯楽に傾斜する点があり、庚申講が隆盛し庚申信仰がより身近な行事として、その記念・祈念碑たる庚申塔が多く建立されたのではないのでしょうか。専門家が分析しているのかもしれませんが。

（8）薬の有害性の事

29日目の7月13日（日）の夜お世話になった宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎の佐竹旅館の御主人さんとの四方山話の中で薬の事について及びました。私が「まったくスタミナ切れはないよ、やる気十分」と自慢げに話したら、「あんた、薬飲んでいるか」と言われました。「今の処何も飲んでいない」と言ったら「それだ！ 薬を飲んでいない事！ 薬を燃やしてごらん、真っ黒くなるよ、真っ黒になると言う事は毒素が入っている証拠だ！」とおっしゃられたのです。私は「至言だ、まさしく！」と思いました。同御主人は自ら肺癌と言う大病を克服した人で「薬は病気を治すためにあるものであり、利くから飲用する、飲めば病気は徐々に治って、薬の飲用は減って行くのが当たり前、自然の理である。ところが何年も同じ量のもの飲み続けなければならぬと言うのは、どうしてもおかしい。毒素をわざわざ体内に蓄積して行く事になる。恐ろしい。」とおっしゃられた意味が鮮明に忘れられません。語りは穏やかですが、強い説得力を感じました。同感・納得の至りです。そこで、後日、自宅に戻ってから、余った薬があったので燃やしてみました。図-90のとおりです。まさしく、同御主人のおっしゃるとおり、バーナーで点火して燃える時は白っぽい煙が出て、燃えた後の滓は真っ黒く、毒々しくドロドロ状態になりました。もしも、この薬が人間にとって有用である、有効性に何の疑問を挟む余地が無いと言うのであれば、燃やした時、成分が酸素と結合して燃え尽きる状態になり、このように毒々しい^{ざんし}残滓・残骸が生ずる事はありません。薬と雖



図-90

も完璧なものはない、副作用の存在が指摘されながら影響が微小なので薬として認可されている、と言うのは、その分野の関係者の責任回避、隠蔽の強弁です。100歩譲って副作用を認めたとしても、それは燃える時には細やかな煙程度で終わるはずですが、残っている薬は一粒や二粒はあろうから試してみてください。関連して思い出した事があります。私の従兄弟の母親（私の叔母・父の妹、現在数えて90歳）に係る話からです。加齢と共に体調を崩し、入院・通院する事になった、20種類近くの薬を与えられた、まもなく痲痺の症状——それらの服用が原因では、と直感があったとの事——が出て来て、改善するどころか増々悪化する状態になった、1年半ほど経過した処で従兄弟の素人判断で、薬を全て捨てて服用を止めさせた、そうしたら見るみるうちに日毎に回復した。薬の副作用、毒素の恐ろしさについて語っていました。今は、体調は少しずつ低下しているものの自宅で普通の生活をしています。

(9) 貴種流離譚の事

ウィキペディア（フリー百科事典）等より要点を記載します。——物語の類型の一種であり、すべての文明に見られる神話にはあ

る種の基底構造があるとする仮説から始まった話型です。神話的英雄の苦難の冒険の物語については、ギリシア神話や日本の神話にも例が見られ、高貴の血脈に生まれ、本来ならば王子などの高い身分にあるべき者が、『王位継承を望まれない（あるいは出来ない）』不幸な境遇に置かれ、しかし、その恵まれない境遇の中で旅や冒険をしたり、巷間で正義を発揮すると言う話型です。あるいは、本来高貴な生まれの子女が、事故や陰謀により陥った不幸な境遇で育ちながら、旅・冒険・活躍をする、と言う類型に当て嵌まる物語を言う。このような心情が民衆の基層へ伝承する中で、貴種に源義経を重ねて、様々な文芸作品に登場するようになった。——この言葉を知って、義経物語にさらに感動を深めた次第です。

(10) 梅雨時の事

6月15日（日）スタートですから、この期間は梅雨というのは分ってはいたが、梅雨の真っただ中の期間に入っており、前線と台風の影響などもあり毎日が蒸し暑く、結果的に雨の日が多く、歩けば直ぐ様に全身が汗でびしょびしょになる毎日でした。

10. 皆からの善意・ご厚意

今までもありましたが、沢山の色々な人からお菓子、キュウリ・トマト、缶コーヒー、缶ジュース、ビール、おにぎり等の飲食物の恵みを頂戴しました。いわゆる差入れを賜りました。まったくの気づ知らずのそれも一時の出会いです。一期一会の温かさ、正直・ストレートな善意に感激しました。14日目の6月28日（土）、図-91は富山県宮崎のある家の軒下を借りて身支度を整えている時、この家の若い人（ある温泉旅館の板前さん？）から声を掛けられ、会話しているうちに、缶ビール、



図-91

缶コーヒー、リポビタンと、各2本ずつ次から次へと差入れがあったのです。遠慮したのですが、ご厚意を受け入れて頂戴しました。よくぞ、ここまで他人に親切に出来るのか、という率直な感想を持ちました。

=====

(後日談)

帰宅後、この方にこの報告書を送付したら、「妻と語り合ったが、世の中にはこのような人もいるのだなあととなり、私も定年退職したら、歴史街道を歩きたいと思っているのだ。」とお礼の電話がありました。実は、失礼ながらこの人の名前を確認しないでしまったのですが、手紙を送る時は、封筒の裏に地形図を貼り、表には、番地は不明なもの地区名まで分っているので、さらに特徴的な「黄色の家」と書きました。よくぞ、郵便局の人が配達してくれたものと柔軟性に感謝しています。(四角四面の役所的発想で『住所はもとより氏名のないものは配達出来ない。』と言われれば仕方がない、とは思っていませんでした。)

=====

泊まりの宿の御主人・女将さん、関係者とは時には人生経験の交流・交換・交感に進展し、楽しい一時が沢山ありました。通りすがりの人達、そして、木の芽峠の一軒家、俱利伽羅源平の郷、安宅住吉神社、親不知観光ホテル、清河八郎記念館、最上峡芭蕉ライン観光(株)、高館義経堂拝観券発行所それぞれの担当の皆さん、その他^{ほか}の多くの人達から親身になったアドバイスを賜り、貴重な情報を貰いました。うれしい事のでんこ盛りでした。今回も、笑顔がすてきな大勢の人達との出会いがありました。

11. 最後にスルーハイクを踏破した感想をつたない短歌に

わがたび ^{さんし} 三戸の虫がもがく旅 救いの主はいずこにありや”
“人様^{しんみ}の親身^{たま}の心玉^{ごと}の如 一期一会で溢れる光”
“ひたすらにピッチを刻む北奥路 雲が後押し雨も友達”
皆^{みんな}から支えられての北奥路 義経主従と抜きつ抜かれつ”
“義経の艱難辛苦に比ぶれば 取るに足らない砂粒試練”
“大芝居義経主従の成せる技 虚も方便変幻自在”
“弁慶の伝家の宝刀闇を切る 機略の限りが前途を開く”
“長かったついに着いたぞ平泉 秀衡歓待栄華の宴”
“誉れかな義経旅を露払い 私も同じ山伏姿”
“京都発北奥^{こうろ}行路は命駆け 靈魂燃やし山河を超える”
“義経記^{ぎけいき}をポッケに納め捲^{めく}りつつ 北奥旅^{ほくおう}は上書き行路”
“義経の艱難辛苦は極め付け 知恵と度胸で難関突破”

12. 「旧北奥ルート・スルーハイク」に係る源義経関連の歴史年表 主要なものを図-92に記載しました。

「旧北奥ルート・スルーハイク」に係る源義経関連の歴史年表（主要なもの）

（注）「義経伝説をゆく（京都新聞出版センター）」「源義経大いに謎（PHP文庫）」「源義経-栄光と落胆の英雄伝説（学研）」「瀧山の歴史-2004（平成16）年10月1日 同編集委員会編纂」を参照した。

鎌倉			平安											奈良			飛鳥												
一八九九	一九九五	一九九二	一九九〇	一九八九		一九八七		一九八六		一九八五	一九八四	一九八〇		一九七四	一九六九	一九五九	一九四八	一〇六二	八六〇	八五一	七九四		七三七	七一二	七一〇		七〇八	西暦	
正治元年	建久六年	建久三年	建久元年	文治五年		文治三年		文治二年		文治元年	寿承三年	治承四年		承安四年	嘉応元年	平治元年	久安四年	康平五年	貞観二年	仁寿元年	延暦十三年		天平九年	和銅五年	和銅三年		和銅元年	和暦	
一月十三日		七月二十日		四月三十日	十月二十九	二月十日		二月二日	十一月六日	五月二十四		八月六日	十月二十一	三月三日														（義経対） 月日	
頼朝没五十三歳		官 源頼朝、朝廷から征夷大将軍任		自害、享年三十一歳 藤原泰衡高館を急襲、義経主従	藤原秀衡没	平泉到着、藤原秀衡に再会		平泉向け京を脱出、北奥ルートで逃避行（北国落ち・東下り）	後吉野などを漂流 於瀬戸内海暴風雨遭漂着、その後頼朝から面会拒絶	義経主従、西国向け京都脱出、頼朝から面会拒絶	義経、腰越で腰越状を託す、兄頼朝から面会拒絶	義経、原島の戦い・壇ノ浦の戦い勝利、平氏滅亡	補任 義経左衛門少尉（檢非違使）に	秀衡の元へ （九郎）義経十六歳、奥州藤原	義経十一歳、鞍馬寺に入る	源義経誕生													義経関連
	鎌倉幕府成立 東大寺復興完成「大仏殿落慶供養」												奈良東大寺、平重衡の軍勢により、大仏殿をはじめ伽藍の大半が焼失			平氏の乱、平清盛実権掌握				慈覚大師、山寺立石寺創建					京都平安京遷都		出羽の国の建国	奈良平城京遷都	日本史関係
			伝・岩浪石行寺観音堂建立															六年とも？） 伝・西行が滝山に遊行（一一八	七年とも？） 源頼義、新山に清水観音を勧請 伝・西行が滝山に遊行（一一四	慈覚大師、岩浪石行寺中興		慈覚大師、滝山中興			行基菩薩、千歳山平泉寺開山			滝山地区史	

図-92

⑬ 2014 (平成26) 年「旧北奥ルート」スルーハイク (29連泊30日間) の全踏破歩行記録 ----- 移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン機 (地図搭載、GPS軌跡&タイム スタンプ機能)」と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」は ～ 源義経逃避行北奥ルート上書き大作戦 ～

(※) 北奥とは、「北」は旧北陸道・旧北国街道・東北の「北」、「奥」は奥羽・陸奥 (むつ、みちのく) ・奥州の「奥」と重ねて意味付けした造語である。

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先	
	月 日	曜 日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算				所在地	名称
				a	b	c	d=c-b	e	f=a/e				
前日	6月14日	(土)									(前日泊)→	京都市下京区	ナインアワーズ京都
													スタート
1日目	6月15日	(日)	[三条大橋(S)]→大津→下坂本→堅田→和邇	35.9	6:35	16:50	10:15	10.3	3.5	晴・曇	以下「旧西近江路」	滋賀県大津市	なべや旅館
2日目	6月16日	(月)	(前終点)→木戸→小松→新旭町→近江今津	37.5	6:15	17:15	11:00	11.0	3.4	晴・曇		滋賀県高島市	旅館 福寿
3日目	6月17日	(火)	(前終点)→(追坂峠)→野口→(山中峠)→駄口→疋田追分(愛発の関)	30.0	6:10	14:50	8:40	8.7	3.5	曇・晴	新疋田駅から北陸道基点向けの電車移動	滋賀県米原町	花屋旅館
4日目	6月18日	(水)	鳥居本(旧北陸道基点)→米原→長浜→木之本	33.2	6:30	17:05	10:35	10.6	3.1	晴れ	以下「旧北陸道(北国街道)」	滋賀県長浜市	草野旅館
5日目	6月19日	(木)	(前終点)→塩津浜→沓掛→(深坂越)→疋田追分→敦賀	31.7	6:15	16:30	10:15	10.3	3.1	晴・曇		福井県敦賀市	つるや旅館
6日目	6月20日	(金)	(前終点)→(越坂)→新保→(木ノ芽峠)→今庄→(湯尾峠)→越前	45.3	5:40	17:30	11:50	11.8	3.8	晴・曇		福井県越前市	旅館 あかし
7日目	6月21日	(土)	(前終点)→鯖江→浅水町→福井	25.7	7:30	16:30	9:00	8.5	3.0	晴・雨		福井県福井市	BH松楽
8日目	6月22日	(日)	(前終点)→芦原温泉→細呂木→(のこぎり坂)→大聖寺	38.1	6:30	16:05	9:35	9.6	4.0	雨・曇		石川県加賀市	アパホテル大聖寺駅前
9日目	6月23日	(月)	(前終点)→片山津温泉→(安宅の関)→(弁慶謝罪の地)→和田山	32.7	6:15	15:25	9:10	9.2	3.6	曇・晴		石川県能美市	能美ふるさと研修センター
10日目	6月24日	(火)	(前終点)→白山市→金沢	33.3	7:00	16:35	9:35	9.6	3.5	晴れ		石川県金沢市	ホテルエコノ東金沢
11日目	6月25日	(水)	(前終点)→竹橋→(倶利伽羅峠)→小矢部→福岡→立野	42.1	6:10	16:50	10:40	10.7	3.9	晴・曇		富山県高岡市	ホテルαワン高岡駅前
12日目	6月26日	(木)	(前終点)→高岡→伏木古府→(如意の渡し)→岩瀬→海岸通	39.5	6:25	16:05	9:40	9.7	4.1	晴れ		富山県富山市	ホテル古志
13日目	6月27日	(金)	(前終点)→水橋→滑川→魚津→黒部	31.0	6:20	14:30	8:10	8.2	3.8	曇り		富山県黒部市	旅館 朝日
14日目	6月28日	(土)	(前終点)→愛本→泊→宮崎→市振→親不知	39.7	6:10	16:00	9:50	9.8	4.0	曇・雨		新潟県糸魚川市	親不知観光ホテル
15日目	6月29日	(日)	(前終点)→寺地→糸魚川→能生小泊	37.6	6:10	15:50	9:40	9.7	3.9	雨・曇		新潟県糸魚川市	ミナト旅館
16日目	6月30日	(月)	(前終点)→名立→有間川→直江津→荒浜→九戸浜	36.6	6:00	16:25	10:25	10.4	3.5	雨・曇	(直江津で羽黒山伏から熊野山伏に変身)	新潟県上越市	ビーチホテル竹清
17日目	7月1日	(火)	(前終点)→柿崎→米山→柏崎→荒浜	38.0	6:10	16:30	10:20	10.3	3.7	晴れ		新潟県柏崎市	旅館 源助
18日目	7月2日	(水)	(前終点)→椎谷→出雲崎→寺泊	38.6	5:55	16:40	10:45	10.8	3.6	晴れ		新潟県長岡市	民宿 志よせ
19日目	7月3日	(木)	(前終点)→(国上寺)→弥彦→岩室温泉→(判官舟かくし) →角田浜	30.4	6:50	15:50	9:00	9.0	3.4	曇・雨		新潟県新潟市	寿館
20日目	7月4日	(金)	(前終点)→越前浜→内野上新町→新潟市中央区→同大形本町	41.2	6:05	16:25	10:20	10.3	4.0	雨・曇		新潟県東区	谷澤旅館
21日目	7月5日	(土)	(前終点)→松浜→太郎代→聖籠町→稲荷岡	36.7	6:20	15:45	9:25	9.4	3.9	晴れ	以下「旧浜通街道」	新潟県新発田市	旅館 田中屋
22日目	7月6日	(日)	(前終点)→宮瀬→乙宝寺→桃崎浜→岩船→瀬波	34.7	6:15	15:30	9:15	8.8	4.0	晴れ		新潟県村上市	瀬波はまなす荘
23日目	7月7日	(月)	(前終点)→(多岐神社)→馬下→(板貝峠)→勝木→府屋→鼠ヶ関	48.0	5:15	17:10	11:55	11.9	4.0	曇・雨		山形県鶴岡市	マルイ旅館
24日目	7月8日	(火)	(前終点)→(念珠の関)→温海→三瀬→(矢引坂)→鶴岡	44.6	5:10	15:55	10:45	10.8	4.1	晴・雨		山形県鶴岡市	ホテルαワン鶴岡
25日目	7月9日	(水)	(前終点)→羽黒町手向→添川→狩川→清川	30.8	6:05	14:30	8:25	8.4	3.7	雨	台風8号、以下「旧出羽三山参詣道」	山形県酒田市	観音湯
26日目	7月10日	(木)	(前終点)→古口→矢向(本合海)→新庄	37.0	6:00	14:55	8:55	8.9	4.1	雨	台風8号	山形県新庄市	BH F U J I
27日目	7月11日	(金)	(前終点)→休場→(亀割山越)→瀬見→向町→富澤	29.1	6:30	15:10	8:40	8.7	3.4	雨・曇	台風8号、以下「旧最上小国街道」	山形県最上町	従兄弟の家
28日目	7月12日	(土)	(前終点)→堺田→(中山越え)→(尿前の関)→鳴子→岩出山片岸	38.0	6:25	15:40	9:15	9.3	4.1	雨・晴		宮城県大崎市	三階旅館
29日目	7月13日	(日)	(前終点)→一迫→(栗原寺)→栗駒岩ヶ崎	34.0	7:10	15:15	8:05	8.1	4.2	晴・雨	以下「陸奥上街道」	宮城県栗原市	佐竹旅館
30日目	7月14日	(月)	(前終点)→猿田→一ノ関→[平泉(高館義経堂・金色堂他)(G)]	37.1	5:45	17:00	11:15	11.3	3.3	曇・晴	一ノ関で「旧奥州街道」と合流		ゴール
											(最終日泊)→	岩手県一関市	一関グリーンホテル
			合計	1,088									←ルート沿い計画距離
			1日平均	36.3					9.8	3.7	33.2		
				km					時間	km/h	km		

(注1) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、93km(1日当り3.1km程)長くなった理由は、山道の登降(沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジグザク歩き方の影響による。
 (注2) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間(片道15分・500m程度超過)街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。